

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・音楽 I	講座名	音楽 I	対象年次	1
教科担任				1	2
教科書	ON! 1 (音楽之友社)				
副教材等	なし				

学習目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を育成する。
------	--

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一 回 定期 考査	読譜の基礎 歌唱	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備運動、呼吸法</li> <li>発声の基礎</li> <li>斉唱「校歌」</li> <li>二部合唱「翼をください」他</li> <li>読譜学習</li> </ul>	豊かな響きを目指す。 フレージング、合唱のバランス等を意識する。 楽譜の理論を理解する。
5月 ～ 7月	第二 回 定期 考査	歌唱 楽典の基礎 鑑賞	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>混声四分合唱「ふるさと」</li> <li>読譜学習</li> <li>器楽アルト・リコーダー</li> </ul>	豊かな合唱の響きを目指す。 リズム唱ができるようになる。 自力で楽譜を読んで、リコーダーを演奏する
7月 ～ 10月	第三 回 定期 考査	器楽 合唱 鑑賞	1 6 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボディーパーカッション</li> <li>リコーダーの基礎練習</li> <li>四部合唱</li> </ul>	リズム譜に慣れる。 リコーダーの演奏力を高める。
10月 ～ 12月	第四 回 定期 考査	器楽 合唱 鑑賞	1 6 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>リコーダー 自分の演奏技量を知る。</li> <li>リコーダー・アンサンブル 自由曲</li> <li>合唱祭に向けての四部合唱曲</li> <li>我が国の音楽の鑑賞</li> </ul>	同程度の演奏技量の者 同士でグループを組み、 パートを編成し、選曲 する。 アンサンブルを創る。
12月 ～ 3月	第五 回 定期 考査	合唱 自由表現	1 9 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>コード理論 (基礎)</li> <li>リコーダー・アンサンブル練習</li> <li>独唱「Caro mio ben」</li> <li>リコーダー・アンサンブル・コンサート</li> <li>独唱コンサート</li> </ul>	ルート、トライアドを 理解する。 選曲し、仲間と一から創 り上げる喜びを味わう。

評価の観点 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への意欲関心、すべての活動における取組状況</li> <li>実技試験</li> <li>提出物 (ワークシートなど)</li> <li>出欠状況</li> </ul>
--------------	---

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・音楽Ⅱ	講座名	音楽Ⅱ	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	MOUSA 2 (教育芸術社)				
副教材等	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽 (啓隆社)				

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深くかかわる資質・能力を育成する。
------	---

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	歌唱 器楽 創作	14h	<ul style="list-style-type: none"> <li>二分合唱 「涙そうそう」 「ハナミズキ」 他</li> <li>クラシック・ギター</li> </ul>	ハーモニーバランスを聴きあい考えながら、呼吸を合わせて表現する。 ギターの構え方などの基礎を定着させる。
	第二回定期考査		14h	<ul style="list-style-type: none"> <li>和声法に基づく作曲 長短三和音について Key (調) における三和音 和声の機能</li> </ul>	
7月 ～ 10月	第三回定期考査	器楽 創作 鑑賞	16h	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界の民族音楽の鑑賞 ピグミー族の合唱</li> <li>クラシックギター 旋律と根音による独奏</li> <li>和声法に基づく作曲 カデンツの連結 和声外音 メロディー作り</li> </ul>	
	第四回定期考査		16h	<ul style="list-style-type: none"> <li>合唱祭用の三部合唱曲</li> </ul>	
12月 ～ 3月	第五回定期考査	歌唱 器楽 創作 鑑賞	19h	<ul style="list-style-type: none"> <li>歌の作詞作曲</li> <li>ピアノ、ギターの弾き語り。</li> </ul>	自作の歌詞で旋律を作曲する。 自作曲を表現豊かに弾き語りする。
評価の観点 ・方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>授業への意欲関心、すべての活動における取組状況</li> <li>発表形式の実技試験</li> <li>提出物 (ノートなど)</li> <li>出欠状況</li> </ul>			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・音楽Ⅲ	講座名	音楽Ⅲ	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	Joy of Music				
副教材等	MUSIC NOTE 基礎から学ぶ高校音楽（啓隆社）				

学習目標	音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会中の多様な音や音楽、音楽文化と深くかかわる資質・能力を育成する。
------	---

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月～5月	第一回定期考査	歌唱 器楽 日本伝統芸能 創作鑑賞	14h	<発声法と表現> 独唱 ・イタリア歌曲 ・日本歌曲  歌舞伎、文楽、能の芸術性と音楽表現 和楽器 三味線の実習	発声の基礎。 歌曲を原語で豊かに表現する。  日本文化の芸術性の高さを味わう。
	第二回定期考査		14h	独唱 ・ミュージカルより ・オペラより ・ポップス クラシック・ギター	様々なジャンルの歌唱法を味わいながら、歌唱表現を深める。 ミュージカルやオペラクラシック・ギターの技量向上を目指す。
7月～10月	第三回定期考査	歌唱 器楽 創作鑑賞	16h	独唱 ・イタリア歌曲 ・ドイツ歌曲 ・日本歌曲  クラシック・ギター	豊かに独唱表現する。  豊かに演奏表現する。
	第四回定期考査		16h	歌の作詞作曲  個別選択課題（自由課題）	クラシックギターの奥深さを味わう。  歌の旋律にコードを付ける。 自作曲を表現豊かに弾き語りする。
12月～3月	第五回定期考査	3年間の総まとめ	19h	歌唱、ギター、の演奏録音	高音質の録音CDを制作し、音楽活動の総まとめをする。

評価の観点 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への意欲関心、すべての活動における取組状況</li> <li>・発表形式の実技試験</li> <li>・提出物（ノートなど）</li> <li>・出欠状況</li> </ul>
--------------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・演習音楽	講座名	演習音楽	対象年次	3
教科担任				単位数	2
教科書	ON! 1 (音楽之友社)				
副教材等	コールユーブンゲン 視唱・リズム問題集など				

学習目標	年間を通して、コールユーブンゲンや新曲視唱、聴音やピアノ練習を続けることで音楽的な基礎技術を身につけていく。
------	--

学期	月	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	リズム	14h	<リズムの基礎> ・テキストから様々な種類の課題を数多くこなす。 ・自主的にテキストの課題を進める。 ・拍子感を味わいながら、正確に課題を打ち、表現する。	正確さ、流れていく感覚、フレーズへの意識を常に心掛ける。 生徒の進度と必要に応じて課題を与える。  「耳を使って良く聴く」事で、正確な音程を声で取れるように訓練する。カデンツを弾いたり歌ったりして和声感をつける。  音程がだんだんと低くなりがちのため注意する。声も出せるよう日頃から発声練習に励む。  リズム、スラー、フレージングなど、楽譜を正確にくみ取りながら、豊かな音楽表現を目指す。
	5月 ～ 7月	音感	14h	<音感> ・何度の音程かを意識しながら正確に唱う。 ・和声進行を学習する。	
7月 ～ 10月	コールユーブンゲン	16h	<コールユーブンゲン> ・音程をつけずに音符をイタリア語またはドイツ語で声に出して読む。 ・自主的に課題を進める。 ・発声法とともに、正確な音程で歌唱する。		
10月 ～ 12月	ピアノ	16h	<ピアノ> ・受験に必要なピアノ曲の練習とレッスン。		
12月 ～ 3月	第五回定期考査		<受験対応> 大学に応じて内容が異なるため、受験する大学の過去問題を確実に身に付ける。  *以上の内容を2時間通して1年間学習する。		

評価の観点・方法	「リズムの基礎」、「コールユーブンゲン」、「ピアノ」を自主的に進めたか評価する。「コールユーブンゲン」、「ピアノ」のレッスンを受けた習熟度。
----------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・美術 I	講座名	美術 I	対象年次	1
教科担任				単位数	2
教科書	高校生の美術1 (日本文教出版)				
副教材等	無し				

学習目標	美術の幅広い創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	グラデーションと手のデッサン (鉛筆) 色彩の基礎 (アクリル)	1 4	明暗のグラデーションを鉛筆で表現する。 自分の手をデッサンする。(8切画用紙)  色の三属性、色の混合、補色対比について	描写力と共に、ものを見る力(観察力・注意力)を高める。 色彩についての基礎的な仕組みを学び、知識の定着を図る。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	デザイン技法 (アクリル) 印象派の作品を模写する (鉛筆) 鑑賞	1 6	スパッターリング、ドリッピング、デカルコマニーバティック等により四季、感情を表現する。 (8切を半裁×4) セザンヌ、モネの油彩作品を模写を通して混色、明暗の表現を学ぶ。(鉛筆によるトレース・6号サイズへの拡大作業) 友人の作品を鑑賞し評価する。	様々なデザイン技法を経験する。  模写する作品を決め、鉛筆によるトレースをする。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	印象派の作品を模写する (アクリル) 木彫レリーフによるジグソーパズル	1 6	セザンヌ、モネの油彩作品を模写を通して混色、明暗の表現を学ぶ。(F6号ボード) 印象派の作品を鑑賞する。 各ピースがそれぞれ独立したレリーフになり、一つのパズルになるようにアイデアスケッチし、板に転写する。	鑑賞し感じたこと・学んだことを、自分の表現に生かす。  自己の考えをまとめて下書きをする。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	木彫レリーフによるジグソーパズル 彩色木版画 (鉛筆) 鑑賞	1 6	板材の限られた厚みの中で、半立体の表現を試みる。彫刻刀やヤスリ、の基本的な扱い方を理解し、安全に作業できるようにする。 (桂板材200×200mm)  「風景の中の私」 友人の作品を鑑賞し評価する。	自分が意図するものをどのように表現するか、創意工夫する。安全に留意する。 版画の特質に留意してアイデアスケッチする。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	彩色木版画 (油性インク黒・アクリル) 鑑賞	1 6	木版画の製作過程を学び、刀による白黒の表現を工夫する。 さらに彩色木版の製作過程を学び表現する。 (シナベニヤ300×225mm) 友人の作品を鑑賞しあう。	資料集め等、構想の段階を大切にさせ、色彩の構成を練る。計画的に制作する。

評価の観点・方法	実技教科として、普段の授業態度および完成作品・課題の提出状況等から総合的に判断する。
----------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	講座名	美術Ⅱ	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	高校生の美術2（日本文教出版）				
副教材等	無し				

学習目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	石膏像デッサン	14	メジチ、ミロのビーナス、ラポルト、闘士、カラカラ、アマゾン、ギリシャ婦人等	伝えたいことを明確にして、画面構成を考え適切な技法を選んで表現する。
5月		文化祭「七高祭」のポスター制作（鉛筆）		スローガンに沿って構想を練り目的に合ったデザイン表現・レタリングをアイデアスケッチする（A3イラストボード シリウス）	
5月	第二回定期考査	文化祭「七高祭」ポスター制作（アクリル）	16	デザイン・レタリングを彩色し仕上げる。	色彩や文字の視認性に留意して製作する。
7月		物語を切り絵にする（鉛筆）		物語を切り絵作品にするためにアイデアスケッチをする。 友人の作品を鑑賞しあう。	
7月	第三回定期考査	物語を切り絵にする（カッター）	16	物語や詩を切り絵作品にする （B4M画ボード・A4黒ラシャ紙）	切り絵の特質を生かし丁寧な表現を行う。 観察と描写を交互に繰り返しデッサンする。
10月		静物着彩（鉛筆）		複数のモチーフを観察し、素描；着色する。透明色、不透明色の観察、混色・重色の工夫。	
10月	第四回定期考査	静物着彩（鉛筆）	16	鴨、鷺、鳩などの鳥の剥製と貝殻などの組み合わせを彩色する。（B3イラストボード）	モチーフの持つ量感・感性・質感・色彩を写実に敵に表現する。 興味関心をひかれた写真・印刷物を収集する。
12月		コラージュとリアルイラストレーション		自分の写真、雑誌の切り抜きなどをコラージュして「不思議な雰囲気」の作品を創る。	
12月	第五回定期考査	鑑賞	16	これを同一画面に模写し写實的に描く。 （B4ケントボード）	マグリットなど、シュールレアリスムの作品を鑑賞し、制作に活かす。
3月				友人の作品を鑑賞しあう。	

評価の観点・方法	実技教科として、普段の授業態度および完成作品・課題の提出状況等から総合的に判断する。
----------	--

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・美術Ⅲ	講座名	美術Ⅲ	対象年次	3年
教科担任				単位数	2
教科書	高校美術3（日本文教出版）				
副教材等	無し				

学習目標	美術の創造的な諸活動を通して、美的体験を豊かにし、美術を愛好する心情と美術文化を尊重する態度を育てるとともに、感性と美意識を磨き、個性豊かな美術の能力を高める。
------	--

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月	第一回定期考査	自主制作①	1 2	自分の能力・適性・興味・関心等に応じ前期の自主制作のテーマを決め、材料や資料準備を含めた制作計画を立てる。 材料やモチーフを決定し、構想を明確にして制作する。 中間講評、鑑賞・講評の実施。	独創的な主題を生成し豊かな発想を基に構想を練る能力、表現方法を工夫し個性を生かして創造的に自己の表現を追求する能力を育成する。
5月					
5月					
7月	第二回定期考査		1 2		個別指導を中心とし、各自が表現意図に応じて材料や用具の選択を工夫し、自分の美意識を生かしてのびのびと創造活動ができるように留意する。
7月	第三回定期考査		1 4	表現することの意味や価値に関心を向け、自分の言葉で自分の考えをまとめる。	自他の作品を味わい、良いところを発見することにより、今後の制作活動に役立てる。
10月					
10月	第四回定期考査	自主制作②	1 4	自分の能力・適性・興味・関心等に応じ後期の自主制作のテーマを決め、材料や資料準備を含めた制作計画を立てる。 材料やモチーフを決定し、構想を明確にして制作する。 中間講評、鑑賞・講評の実施。	
12月					
12月	第五回定期考査		1 8		
3月					

評価の観点・方法	実技教科として、普段の授業態度および完成作品、課題の理解、計画性等を総合的に判断する。
----------	---

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・デッサン	講座名	デッサン	対象年次	3年
教科担任				単位数	2
教科書	無				
副教材等	無				

学習目標	さまざま描画材料・モチーフに触れ、対象の形体や色、明暗や質感、空間等を把握し、造形表現の基礎となる観察力と描写力を高める。
------	---

月	期間	単元	配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>グラデーション「森の絵」を描く</li> <li>静物デッサン1 (直方体、球、円柱等)</li> <li>木炭の扱い方 (木炭)</li> </ul>	1 4	<p>「森の絵」として鉛筆で表現する。グラデーションを意識し、多様な線で描く。 (8切画用紙)</p> <p>基本的な形体の描き方を学ぶ。光の方向を意識し、立体をよく観察する。 (8切画用紙×2)</p> <p>木炭の扱いを経験する。 (木炭紙半切)</p>	無彩色のバリエーションの豊かさに気をつけながら描く。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>石膏首像デッサン1 (木炭)「紙を絞る手」(鉛筆)</li> </ul>	1 6	<p>石膏首像を観察し、比例、明暗、量感、動性を表現する。 (木炭紙)</p> <p>自分の手を観察し、比例、明暗、量感、動性を表現する。</p>	<p>観察・描写・修正を繰り返していく。</p> <p>試行錯誤をし、木炭の生かし方を考える。</p>
7月 ～ 10月	第三回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>「紙を絞る手」(鉛筆)</li> <li>石膏胸像デッサン2 (鉛筆)</li> </ul>	1 4	<p>自分の手を観察し、比例、明暗、量感、動性を表現する。さらに紙を絞る手を想定して描く (4切画用紙)</p> <p>石膏像を観察し、比例、明暗、量感、動性を表現する。 (木炭大画用紙)</p>	<p>観察・描写・修正を繰り返しながら、まとめ上げていく。</p> <p>全体感を大事にした、色のせ方・量感の表現等を学ぶ。</p>
10月 ～ 12月	第四回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>静物デッサン (鉛筆)</li> <li>「牛頭骨とヤシの実」(鉛筆)</li> </ul>	1 4	<p>鉛筆の色の美しさを生かし、明暗や比例・量感に気をつけながら手と貝殻を描く (4切画用紙)</p> <p>鉛筆の色の美しさを生かし、明暗や比例・量感に気をつけながら牛頭骨を描く (木炭大画用紙)</p>	全体感を大事にした、色のせ方・量感の表現等を学ぶ。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>自主制作「風景の中の私」</li> </ul>	1 8	<p>自主計画によるデッサン制作。「風景の中の私」と題して自分の興味・関心・能力に応じて描画材や主題・モチーフを各自選択し、作品を完成させる。</p> <p>自他の作品を味わい、良いところを発見することにより、今後の制作活動に役立てる。</p>	個別指導を重視し、各自が目的を持って計画を立てるよう注意する。

評価の観点・方法	実技教科として、普段の授業態度および完成作品・課題の提出状況等から総合的に判断する。
----------	--



令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・書道 I	講座名	書道 I	対象年次	1
教科担任				単位数	2
教科書	書 I (教育図書)				
副教材等	なし				

学習目標	書道は、生徒の個性を生かしながら、豊かな情操を養う科目である。書道の幅広い活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を豊かにし、書写能力を高め、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばすことを目標とする。
------	--

月	期間	単元	配当	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一回定期考査	漢字の学習 I	1 2 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>書道 I の学習内容 (書写から書道へ) の説明</li> <li>用具・用材の説明、姿勢の説明</li> <li>楷書の基本用筆 (自分の名前など)</li> <li>孔子廟堂碑の臨書と鑑賞</li> </ul>	芸術科書道の学習の意義を理解する。 楷書の成立とその基本用筆を理解する。
5月 ～ 7月	第二回定期考査	漢字の学習 I	1 2 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>九世宮體泉銘の臨書と鑑賞</li> <li>楷書古典の臨書と鑑賞</li> <li>創作 (うちに四字熟語、故事成語など好きな言葉を書く)</li> </ul>	古典を生かし、書風や形式を考えながら創作する。
7月 ～ 10月	第三回定期考査	仮名の学習  漢字仮名交じりの書の学習	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮名の用筆と基本的な筆づかい</li> <li>仮名の単体・連綿、変体仮名</li> <li>高野切第三種の臨書と鑑賞</li> <li>漢字仮名交じりの書を書く (座右の銘や信条など)</li> <li>用筆・運筆による工夫</li> <li>文字の大きさと配置の工夫</li> <li>意図の基づく表現の構想と工夫</li> </ul>	仮名の成立とその基本用筆を理解する。 表現の工夫により作品が生かされることを理解する。
10月 ～ 12月	第四回定期考査	漢字の学習 II	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>行書の基本用筆 (自分の名前など)</li> <li>行書古典の臨書と鑑賞</li> <li>風信帖の臨書と鑑賞</li> </ul>	行書の成立とその基本用筆を理解する。 時代背景を理解しながら、王羲之・空海の書を学ぶ。
12月 ～ 3月	第五回定期考査	作品を創る  まとめ	1 8 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書、の中から一つの書体を選び、臨書または創作を行う。(形式は掛け軸で、半切)</li> <li>作品集の和綴じ</li> <li>感想を書く (手紙文形式)</li> </ul>	今までの学習を生かして個性的な作品を制作する。 一年間の学習を通じて書の世界の理解を深める。
評価の観点・方法		<ul style="list-style-type: none"> <li>書道は、実技教科であるので、各単元における作品の提出を評価の主な観点とする。</li> <li>なお、作品と授業態度を含めて、総合的に判断する。</li> </ul>			

令和4年度 年間授業計画

都立墨田川高等学校

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	講座名	書道Ⅱ	対象年次	2
教科担任				単位数	2
教科書	書Ⅱ（教育図書）				
副教材等	なし				

学習目標	書道は、生徒の個性を生かしながら、豊かな情操を養う科目である。書道の創造的な諸活動を通して、書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書の文化や伝統についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばすことを目標とする。
------	---

月	期間	単元	1配当時間	学習内容	学習上の留意点
4月 ～ 5月	第一 回定期 考査	書の歩み 草書の学習  仮名の学習	1 2 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>書道Ⅱの学習内容（五体、仮名、漢字仮名交じりの書）の説明</li> <li>草書の成立</li> <li>書譜の鑑賞と臨書</li> <li>高野切第一種の臨書と鑑賞</li> <li>三色紙の臨書と鑑賞</li> <li>散らし書き、変体仮名</li> </ul>	<p>書体全般と草書の成立と用筆を理解する。</p> <p>仮名の古典作品の表現特徴と美しさを理解する。</p>
5月 ～ 7月	第二 回定期 考査	隸書の学習 漢字・仮名の学習	1 2 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>隸書の成立</li> <li>乙瑛碑の臨書と鑑賞</li> <li>曹金碑の臨書と鑑賞</li> <li>創作 (俳句、短歌、詩、四字熟語など好きな言葉を書く)</li> </ul>	<p>隸書の成立と用筆を理解する。</p> <p>古典を生かし、書風や形式を考えながら創作する。</p>
7月 ～ 10月	第三 回定期 考査	篆書の学習	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆書の特徴</li> <li>泰山刻石の鑑賞と臨書</li> <li>甲骨文、金文、石鼓文の鑑賞</li> </ul>	<p>篆書の用筆などを理解する。</p>
10月 ～ 12月	第四 回定期 考査	篆書の学習	1 4 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>篆刻（自分の名前を白文と朱文で刻す）</li> <li>篆刻</li> <li>印譜を作る</li> <li>和綴じ</li> </ul>	<p>篆刻の方法と用具、意義について理解する。</p> <p>篆刻の楽しさに触れる。</p>
12月 ～ 3月	第五 回定期 考査	大字書 作品を創る  まとめ	1 8 h	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字、仮名、漢字仮名交じりの書の中から1つの書体を選び、臨書または創作を行う。（形式は自由）</li> <li>作品集の和綴じ</li> <li>感想を書く（手紙文形式）</li> </ul>	<p>今までの学習を生かして個性的な作品を制作する。</p> <p>一年間の学習を通じて書の世界の理解を深める。</p>

評価の観点 ・方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>書道は、実技教科であるので、各単元における作品の提出を評価の主な観点とする。</li> <li>なお、作品と授業態度を含めて、総合的に判断する。</li> </ul>
--------------	--